

「探究活動を牽引してほしい」と期待されます
それは重い荷物を引っ張るように 覚悟のいることでしょうか

先輩たちの言葉です
「とにかく実験が楽しかった」
「失敗もあったけれど、何回も実験をして成果が出て嬉しかった」
「発表会にチャレンジして、自信になった」

実験に集中すること 忙しくても仲間と協力してデータを集めること
授業で取り組んだ成果を 外部で発表し質問されること
次のチャレンジをまた考えること

夢中になっているうちに
いつの間にか牽引していることになります

自身の可能性を引き出してくれる
情熱が湧いてくる探究を
焦らずに見つけ出してください

神奈川県立多摩高等学校 スーパーサイエンスハイスクール 学校設定教科 Meraki テキスト 三版

●参考文献

- 岡本尚也 (2021) 『課題研究メソッド 2nd Edition』 啓林館
- 広島修道大学 ひろしま協創中学校・高等学校 (2021) 高1 探究科高大連携授業「問いを立てる・磨く」
<https://www.shudo-u.ac.jp/fuzoku/news/20211001.html> (2022 年 4 月最終閲覧)
- 向後千春, 富永敦子 (2009) 『統計学がわかる 回帰分析 因子分析編』 技術評論社
- 文部科学大臣決定 (2014) 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/___icsFiles/afieldfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf#zoom=75 (2023 年 1 月最終閲覧)
- 科学技術振興機構 (2020) 研究者のみなさまへ ～責任ある研究活動を目指して～
https://www.jst.go.jp/researchintegrity/shiryo/pamph_for_researcher.pdf (2023 年 1 月最終閲覧)
- 中村禎里 (2000) 『生物学を創った人々』 みすず書房
- 石村 貞夫 (2001) 『分散分析のはなし (第 11 版)』 東京図書株式会社
- 島村 東世子 (2019) 『研究発表ですぐ使える理系の英語プレゼンテーション (初版 7 刷)』 日刊工業新聞社
- Klara Wilk et al. (2022) The Effect of Artificial Sweeteners Use on Sweet Taste Perception and Weight Loss Efficacy: A Review, *Nutrients*, Vol.14, No.6, p.1261
- Shuping Zhonga et al. (2024) Effect of freezing pretreatment on the mitigation of acrylamide in potato chips and French fries *LWT*, Vol.200, 116174
- HOTOGI, HAGIWARA (2015) Analyses of Local Mascot Characters and Proposal of Automatic Character Creation System Using Affective Words *International Journal of Affective Engineering*, Vol.14, No.4

●イラスト・ロゴ

- いらすとや/illustimage/イラスト AC
- 国連グローバル・コミュニケーション局 持続可能な開発目標 カラーホイールを含む SDGs ロゴと 17 のアイコンの使用
ガイドライン https://www.unic.or.jp/files/SDG_Guidelines_AUG_2019_Final_ja.pdf
- 神奈川県立多摩高等学校 (2020) SSH 通信「情熱メラキ」号外 メラーキゆるキャラコンテスト

●本文テキスト

- 神奈川県立多摩高等学校 SSH 推進会議 (Chapter1～Chapter3, p.1～p.114)

発行者 神奈川県立多摩高等学校 (神奈川県川崎市多摩区宿河原 5-14-1)

印刷 株式会社 アサヒプリンティング

2026 年 6 月発行

※三版: Meraki 探究基礎・Meraki 探究・Meraki 探究グローバルの学習内容を収めています